

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	272400359		
法人名	社会福祉法人緑鷗会		
事業所名	グループホームみどり		
所在地 (電話番号)	〒038-3661 青森県北津軽郡板柳町福野田字実田54-4 (電話) 0172-79-1150		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成20年7月12日	評価確定日	平成20年9月3日

【情報提供票より】(平成20年6月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤	人, 常勤換算 6.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(6月21日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢 平均	80.4 歳	最低	68 歳
		最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	渡部胃腸科内科医院、下田クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>町の中心街にあり、ねぶたの運行や消防のパレードを見学することが出来る。職員異動はない為、利用者との馴染みの関係も築かれており、ゆったりとした共用スペースでは、表情も明るく、ゆっくり過ごせる環境となっている。母体が医療機関との事で、緊急時の連携がすぐとれる体制である。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題に対して概ね改善されていたが、身体拘束をしないケアの実践では、止むを得ず拘束が行われている利用者に対しての記録物の取り扱いが十分とはいえない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人ひとりが自己評価をすることで、意識づけ、動機づけができ、ケアの改善につなげている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>行事内容や日常のできごとを詳細に会議で報告している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>面会時などいつでも要望等を表出できるよう対応できる体制となっているが今現在、家族よりの苦情、要望等は寄せられていない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>買い物時町会の方と挨拶程度は交わっている。又ねぶたの運行や消防のパレードは見学しているものの、町会や地域住民との交流は十分であるとはいえない。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前年度の理念をもとに、職員同士で話し合い、地域に根ざした理念となるよう「地域」という文言を追加し、再作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝・夕のミーティング時に確認し合い、共有している。援助の過程において、理念を意識しながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	街中に立地しており、ねぶたの運行や消防のパレードは見学することができる。隣接しているディサービスセンターとは交流があるが、町会や地域住民との交流は買い物時の挨拶程度で十分であるとはいえない。		地域の一員として地元の活動や地域住民との交流にもっと積極的に取り組んでいくことを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者、職員ともに自己評価を行っている。この自己評価をきっかけに意識づけ、動機づけができ、ケアの改善につなげている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>行事内容や日常のできごとを詳細に会議で報告している。現状では家族参加が少ない。参加していない家族には情報提供として、資料を送付している。</p>		<p>家族の参加がもっとできるように、開催日の調整等を行い、家族の意見の表出を図りサービスの質の向上に活かしていくことを期待します。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者と管理者の変更があり、関係づくりが積極的に行えていない状況であった。</p>		<p>担当者が変わっても関係づくりを積極的に行い、協働関係を構築していくことを期待します。</p>
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修に参加し、また地域福祉権利擁護事業を利用されている利用者もいるため、制度の周知が図られている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修にも参加し、意識付けができています。またミーティング等で啓発しており、虐待のないケアが実践されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には運営規定、重要事項説明書等にて十分説明を行っており、家族が理解できるよう情報提供を行っている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ホームの便りを3ヶ月に1回発送している。少なくとも3ヶ月に1回は面会に来ているため、その際、ケアプランの説明を行っている。その他に面会の回数が少ない家族には電話で暮らしぶりを報告している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの意見や相談、苦情等はなかった。要望等を表出できるよう配慮はしているが、意向や要望等もない状況である。</p>		<p>家族アンケートや家族面会時に意識的に呼びかけ、家族等が安心して表わせる機会を積極的につくっていくことを期待します。</p>
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職による職員の補充はあるが、職員異動はない。利用者が馴染みの関係でいられる配慮がされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、できるだけ全職員が研修に参加できるように配慮している。研修後は全職員に回覧し、知識の共有が図られている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム職員との交流は定期にあり、情報の交換及び研修会等が積極的に行われており交流が図られているが、法人外とは交流が図られていない。		他法人の同業者との交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会を通じて、サービスの水準を今以上に向上させていくことを期待します。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に施設内を見学していただき、ホームの雰囲気を感じとれるよう働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本位のケアの実践が行われており、利用者の得意とすることについては、利用者から学ぶ姿勢で援助している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集については詳細にアセスメントが行われており、聞き出せない情報については家族からも得ている。本人本意の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当介護員が1人を受け持ち、ケアマネージャーや他スタッフと話し合いケアプランの作成が行われている。また可能な限り意向を重視し、より良く暮らせる計画が作成されている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の定期的見直しのほか、状態の変化等時は随時、適時に見直しを実践している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の長期外泊時はショートステイの利用枠として確保しており、地域が求める多機能性に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療機関のため、定期的に全て医師の往診が行われている。また本人等の希望があれば希望の病院に受診できるよう援助している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り指針が明確化されている。重度化した場合を想定し、職員間、医療スタッフと十分情報交換が行われている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常生活援助(排泄介助・更衣時等)においても、常にプライバシーの確保に努め、安易に声掛けをしないよう日々確認合っている。また記録物についても安全な管理がなされている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて、ゆったりとした援助が行われている。ひとりひとりの日常に合わせて、声掛けやケアが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の栄養士が一括して献立を作成している。食の形態は十分配慮されている。一緒に会話等しながら後片付けをしており、また一緒に食事を楽しんでいた。		利用者の要望や好みを把握し、楽しい食事づくりをされるよう期待します。
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴の援助が行われている。夜間浴の希望があれば対応できる体制となっており、利用者本位の入浴の援助がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくりや、食器の後かたづけ、掃除、洗濯たたみ等、生活歴、能力を活かした支援がされている。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週に1.2回外出支援を行っている。また、ゴミ出しをしたあと毎日外に出て、散歩する利用者もいるなど、利用者の意向に沿った支援が実施されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず拘束が行われている利用者に対しての記録物の取り扱いが十分とはいえない。またその他の利用者に対しては、拘束をしない介護を実践している。		拘束解除の取り組みについての記録の充実が図られることを期待します。
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が不穏となり、見守りができない状況のときは日中でも鍵をかけることがあるが、概ね鍵をかけていない。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員も参加しながら、本格的な避難訓練が実施されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は栄養士作成のもとに栄養管理がされている。また、水分確保にも配慮しており、食事摂取量低下時は看護師も食事介助を行っており、栄養の確保に十分努力している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルも掲示されており、日常的に感染症対策が実践されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>台所と食堂が隣接しており生活感のある雰囲気だった。</p> <p>共用空間には、ゆったりとした畳の部屋がある。ただし、利用者が座ってくつろぐには十分といえない環境であった。</p>		<p>共用空間においては、利用者にとって居心地のよい空間作りをめざすことを期待します。</p>
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>整理・整頓され衛生的ではあるが使い慣れた馴染みのものがあまり見られず、少し殺風景な印象であった。</p>		<p>本人の意向を確認しながら、居心地のよい居室づくりに取り組んでいくことを期待します。</p>

 は、重点項目。